

令和 4 年度
全国学力・学習状況調査

報告書

児童生徒一人一人の学力・学習状況に
応じた学習指導の改善・充実に向けて

中学校 国語

授業アイデア例
掲載

令和 4 年 8 月
文部科学省 国立教育政策研究所

目 次

1. 調査の概要	1
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の対象とする児童生徒	2
(3) 調査事項及び手法	2
(4) 調査の方式	3
(5) 調査日時	3
(6) 集計児童生徒・学校数	4
(7) 調査結果の解釈等に関する留意事項	6
2. 教科に関する調査の結果（概要）	7
(1) 調査問題の内容、課題等、指導改善のポイント	8
(2) 集計結果（正答等の状況）	10
(3) 地域の規模等の状況	12
(4) 都道府県・指定都市の状況	12
(5) 教育委員会の状況	13
(6) 学校の状況	13
(7) 国・公・私立学校の状況	14
3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題	15
(1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方	16
(2) 中学校 国語	19
[1] スピーチをする（「最近気になったこと」）	20
設問一	22
設問二	23
設問三	24
授業アイデア例 音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話す	27
[2] 意見文を書く（「先端技術との関わり方」）	30
設問一	32
設問二	33
設問三	34
授業アイデア例 考えの根拠が明確になるように情報を引用して書く	39

3	文学的な文章を読む（「都会のビーチ」）	42
	設問一	44
	設問二	47
	設問三	48
	設問四	49
授業アイデア例		
	話の展開を捉えて内容を解釈し、作品を読み味わう	51
4	書写	54
	設問一	55
授業アイデア例		
	楷書の学習を踏まえ、行書の特徴を理解して書く	57
	設問二	59
	設問三	59

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象とする児童生徒

【小学校調査】

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

【中学校調査】

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、
中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

出題内容はそれぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に問うもの。

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査問題は学習指導要領（平成29年告示）に示された目標及び内容等に基づいて作成。

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
- ・地域や社会に関わる活動の状況等
- ・ICTを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・生徒指導等
- ・学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・ICTを活用した学習状況
- ・各教科の指導方法
- ・個に応じた指導
- ・新型コロナウイルス感染症の影響

※調査項目は毎年度文部科学省において決定。

※全国学力・学習状況調査の開始当初（平成19年度）と比べて質問紙調査の質問項目数が増加し、平成30年度より、毎年調査する項目と数年おきに調査する項目を分別し、質問項目数を選定。

(4) 調査の方式
 悉皆調査

(5) 調査日時
 令和4年4月19日(火)

【小学校調査】

1 時限目	2 時限目	3 時限目	
国語 (45 分)	算数 (45 分)	理科 (45 分)	児童質問紙 (20～40 分程度)

【中学校調査】

1 時限目	2 時限目	3 時限目	
国語 (50 分)	数学 (50 分)	理科 (50 分)	生徒質問紙 (20～45 分程度)

※児童生徒質問紙調査は、一部の学校において、PC・タブレット等の端末を活用したオンラインによる回答方式で実施。なお、オンラインによる回答方式で実施する場合、ネットワーク等の状況を考慮し、4月19日～4月28日の期間中における回答を4月19日に実施した調査の結果として集計している。

※調査の実施日に、特定の学校において調査を実施できないやむを得ない事情がある場合は、教育委員会及び学校等の判断により、当該学校における調査実施日を後日に変更することができることとしている。調査実施日を後日に変更する場合、全体の集計からは除外するが、4月20日～5月20日に実施された調査については、採点及び調査結果の提供を行っている。

(6) 集計児童生徒・学校数

① 集計基準

児童生徒に対する調査について、令和4年4月19日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計。学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

② 集計児童生徒数

(小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年)

	調査対象児童数 ^{※1}	4月19日に調査を実施した児童数 ^{※2}	【参考】 4月19日～5月20日に調査を実施した児童数
公立	1,038,101人	965,761人	993,977人
国立	6,498人	6,097人	6,332人
私立	13,061人	6,253人	6,542人
合計	1,057,660人	978,111人	1,006,851人

(中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、
中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年)

	調査対象生徒数 ^{※1}	4月19日に調査を実施した生徒数 ^{※2}	【参考】 4月19日～5月20日に調査を実施した生徒数
公立	994,935人	892,585人	905,178人
国立	10,128人	9,640人	9,664人
私立	82,226人	26,284人	26,827人
合計	1,087,289人	928,509人	941,669人

※1 調査対象児童生徒数について、公立・国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、令和3年度学校基本調査による。調査当日までの転入出等により増減の可能性がある。

※2 調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

③ 集計学校数

(小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	4月19日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 4月20日～5月20日 に調査を実施し た学校数	【参考】 4月19日～5月20日に 調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	18,805校	18,671校 (99.3%)	101校	18,772校 (99.8%)
国立	75校	73校 (97.3%)	2校	75校 (100.0%)
私立	242校	123校 (50.8%)	4校	127校 (52.5%)
合計	19,122校	18,867校 (98.7%)	107校	18,974校 (99.2%)

(中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	4月19日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 4月20日～5月20日 に調査を実施し た学校数	【参考】 4月19日～5月20日に 調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	9,437校	9,348校 (99.1%)	60校	9,408校 (99.7%)
国立	80校	80校 (100.0%)	0校	80校 (100.0%)
私立	765校	334校 (43.7%)	5校	339校 (44.3%)
合計	10,282校	9,762校 (94.9%)	65校	9,827校 (95.6%)

(7) 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

本調査の結果においては、国語、算数・数学、理科ごとの平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、平均正答数、平均正答率のみならず、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価することが必要である。また、個々の問題や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

<用語説明>

語句	説明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均。
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語、算数・数学、理科ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、問題ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
最頻値	集団のデータにおいて、最も多く現れる値。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。
解答類型	各問題についての正答、予想される解答などの解答状況を分類し整理したもの。

2. 教科に関する調査の結果（概要）

(1) 調査問題の内容、課題等、指導改善のポイント

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く。
- ウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える。
 - 作品の結末での登場人物の心情を解釈し、話の展開を取り上げて書く。

○課題等

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ◇ 助動詞の働きについて理解し、文章の中で意図的に使うことや〔2一〕、文脈に即して漢字を正しく書くことはできている〔2二〕。
- ◇◆ 文脈の中における語句の意味を理解することはできているが〔3二〕、文章の中で用いられている表現の技法について理解することに課題がある〔3一〕。

情報の扱い方に関する事項

- ◆ 引用の仕方や出典の示し方について理解し、書く活動の中で使うことに課題がある〔2三〕。

我が国の言語文化に関する事項

- ◇◆ 漢字の行書の読みやすい書き方や、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方について理解することはできているが〔4二、三〕、行書の特徴を理解することに課題がある〔4一〕。

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

- ◇◆ 具体的な助言を生かしてスピーチの表現を工夫することはできているが〔1一〕、意図を明確にして話し方の工夫を具体的に考えることに課題がある〔1三〕。

書くこと

- ◆ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題がある〔2三〕。

読むこと

- ◇◆ 文学的な文章を読み、場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することはできているが〔3四〕、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることに課題がある〔3三〕。

◇…比較的できている点 ◆…課題のある点 []内の記号は、問題番号

○指導改善のポイント

〔知識及び技能〕

情報の扱い方に関する事項

○ 引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、使えるようにする指導の充実

- ・ 引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、言語活動の中で使うことができるようにすることが必要である。そのために、本や資料から文章や図表などを引用する必要がある言語活動の中で、引用の際には引用箇所をかぎかっこ（「 」）でくくることが、出典を明示すること、引用部分を適切な量とすることなどについて確認するとともに、引用する目的や効果について考えるように指導することが大切である。

我が国の言語文化に関する事項

○ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書けるようにする指導の充実

- ・ 伝達性や表現性などを考えながら、目的や必要に応じて効果的に文字を書くためには、楷書だけではなく、行書の基礎的な書き方を身に付けることが必要である。そのために、「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」などの行書の特徴を、伝統的な文字文化とも関連させながら理解し、それぞれがどのような書き方なのかを具体的に捉えて、実際に書くことができるように指導することが大切である。

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

○ 自分の考えが分かりやすく伝わるように、工夫して話す指導の充実

- ・ 自分の考えを聞き手に分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立ち、どのような工夫が効果的なのか考え、工夫して話すことができるようにすることが必要である。第1学年では、相手の反応を踏まえながら、第2学年では、資料や機器を用いるなど、第3学年では、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、様々な工夫があることを理解し、実践できるように指導を重ねることが大切である。

書くこと

○ 自分の考えが分かりやすく伝わるように、根拠を明確にして書く指導の充実

- ・ 自分の考えが伝わる文章を書くために、自分の考えとそれを支える根拠とのつながりに留意して、工夫して書くことができるようにすることが必要である。第1学年では、根拠という概念があることを理解した上で、根拠を明確にしなが、第2学年では、根拠が自分の考えを支える上で適切かどうかを考えながら説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなどして、第3学年では、表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなどして、自分の考えを記述することができるよう、系統的に指導することが大切である。

読むこと

○ 叙述に基づいて内容を理解して読む指導の充実

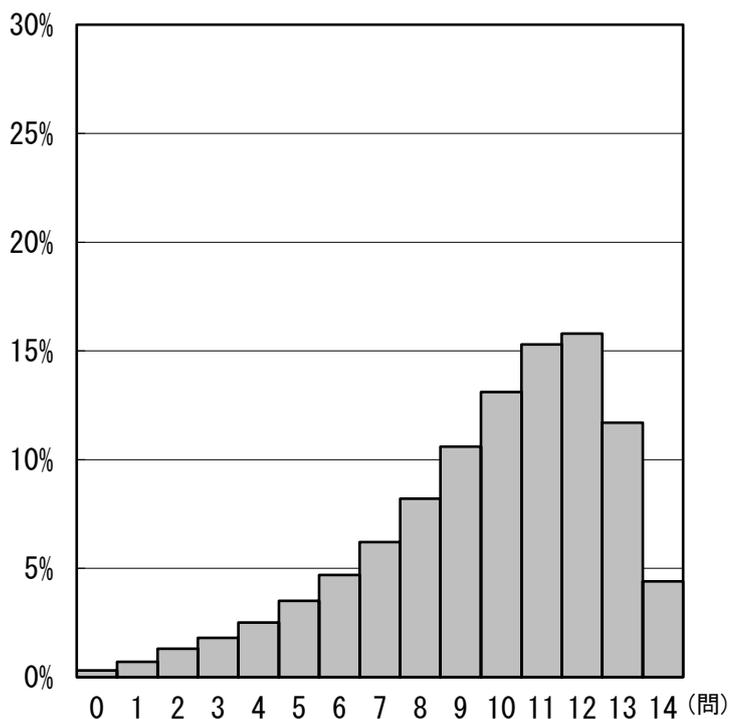
- ・ 文学的な文章を読んで、自分の考えを形成するには、まず、言葉を手掛かりに文脈をたどり、書かれている内容を理解できるようにすることが必要である。第1学年では、描写を基に場面の展開や登場人物の心情の変化などを、第2学年では、文章全体と部分との関係に注意しながら登場人物の設定の仕方などを、第3学年では、文章の種類を踏まえて物語の展開の仕方などを捉えることができるように、教材の特性を生かして指導することが大切である。

(2) 集計結果 (正答等の状況)

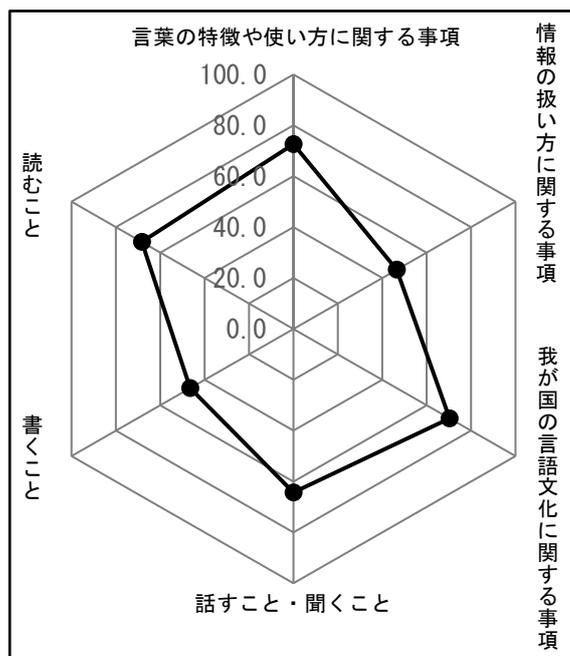
【国語】

生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
927,718 人	9.7 問/14 問	69.3%	10.0 問	2.9 問	12 問

正答数分布グラフ (横軸: 正答数、縦軸: 生徒の割合)



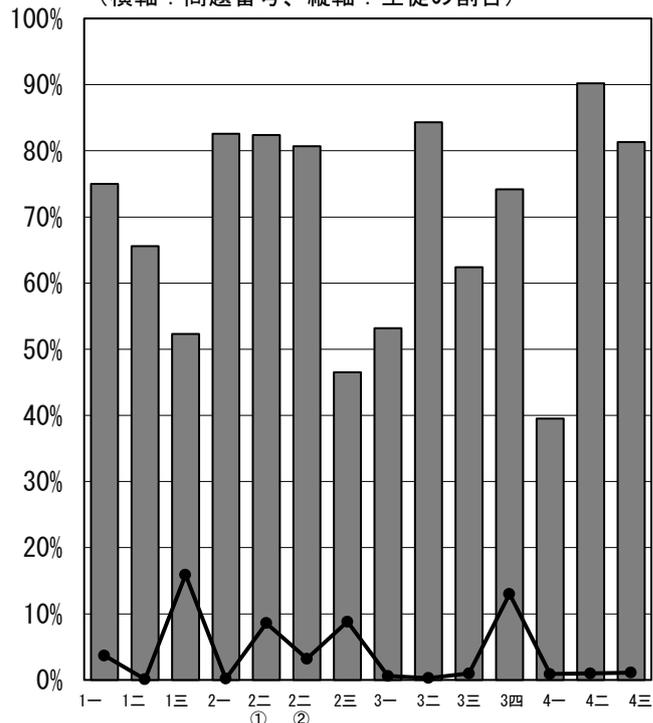
学習指導要領の内容の平均正答率



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)	
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	6	72.6
		情報の扱い方に関する事項	1	46.5
		我が国の言語文化に関する事項	3	70.3
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	3	64.3
		書くこと	1	46.5
		読むこと	2	68.3
評価の観点	知識・技能	10	69.3	
	思考・判断・表現	6	62.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	6	73.9	
	短答式	5	70.7	
	記述式	3	57.7	

問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」
(横軸: 問題番号、縦軸: 生徒の割合)



問題別集計結果

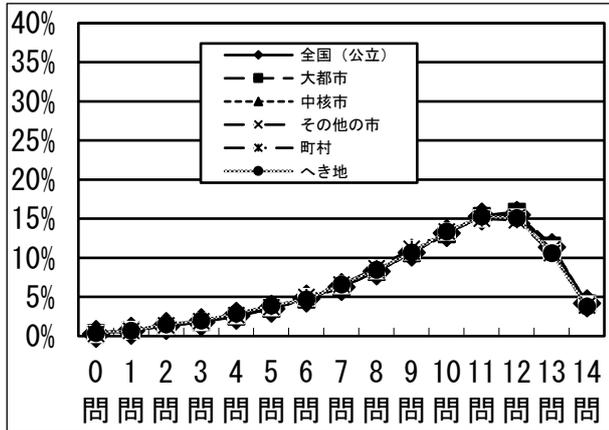
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容					評価の観点			問題形式	正答率 (%)	無解答率 (%)	
			知識及び技能		思考力、判断力、表現力等			主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式				記述式
			言葉の特徴や使い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項	我が国の言語文化に關する事項	話すこと・聞くこと	書くこと							
1一	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する				1ウ			○		○	75.0	3.7	
1二	話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する	論理の展開などに注意して聞く				2エ			○		○	65.6	0.1	
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	1ア			1ウ		○	○		○	52.3	15.9	
2一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う	2オ						○		○	82.6	0.2	
2二①	漢字を書く（ <u>のぞく</u> ）	文脈に即して漢字を正しく書く	2ウ						○		○	82.4	8.6	
2二②	漢字を書く（ <u>よろこんで</u> ）		2ウ						○		○	80.7	3.2	
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	1イ			1ウ		○	○		○	46.5	8.8	
3一	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	表現の技法について理解する	1オ						○		○	53.2	0.6	
3二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解する	1ウ						○		○	84.3	0.3	
3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える					1イ		○		○	62.4	1.0	
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する					1ウ		○		○	74.2	13.0	
4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する				1エ(4)			○		○	39.5	0.9	
4二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する				2ウ(7)			○		○	90.2	1.0	
4三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する				2ウ(7)			○		○	81.3	1.1	

(3) 地域の規模等の状況

○ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差を見ると、地域の規模等（公立：大都市、中核市、その他の市、町村、へき地）による大きな差は見られない。

[国語]

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
全国（公立）	891,820人	9.7 / 14問	69.0%	10.0問	2.9問
大都市	224,344人	9.7 / 14問	69.2%	10.0問	2.9問
中核市	206,912人	9.7 / 14問	69.1%	10.0問	2.9問
その他の市	372,620人	9.6 / 14問	68.6%	10.0問	2.9問
町村	78,059人	9.5 / 14問	68.2%	10.0問	2.9問
へき地	13,639人	9.5 / 14問	68.1%	10.0問	3.0問

※大都市（政令指定都市及び東京23区）、中核市、その他の市、町村の値は、当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する生徒の調査結果（正答数）を集計したものである（都道府県立学校は含まない）。

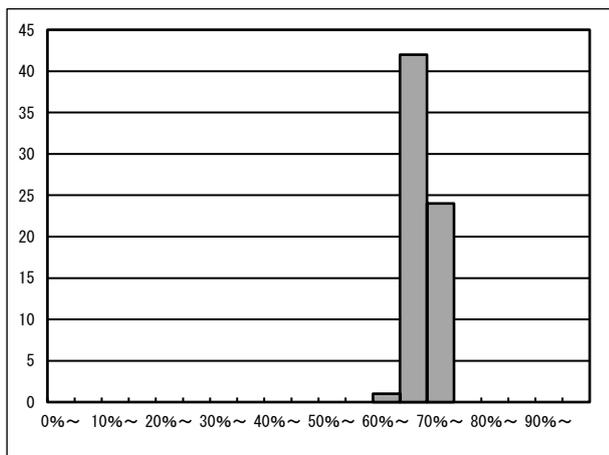
※へき地の値は、へき地教育振興法及び各都道府県の条例（規則）によって指定された学校に在籍する生徒の調査結果を集計したものである。大都市、中核市、その他の市、町村の値に重複する。

(4) 都道府県・指定都市の状況

○ 各都道府県・指定都市（公立）の状況については、平均正答率を見ると、全ての都道府県・指定都市が平均正答率の±10%の範囲内であり、大きな差は見られない。

[国語]

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：都道府県・指定都市数）



全国（公立）の平均正答率	全都道府県市（公立）中、最高平均正答率【全国との差】	全都道府県市（公立）中、最低平均正答率【全国との差】
69%	73% 【+4%】	64% 【-5%】

※都道府県は指定都市を除く。全国（公立）の平均正答率は整数値で表示している。

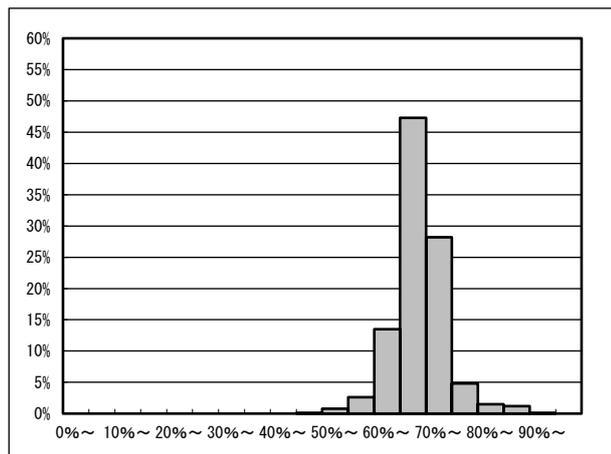
(5) 教育委員会の状況

○ 各教育委員会の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、令和3年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

[国語]

教育委員会数	教育委員会の平均正答数	教育委員会の平均正答率	教育委員会の中央値	教育委員会の標準偏差
1,779	9.6 / 14問	68.8%	68.7%	5.0%

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：教育委員会の割合）



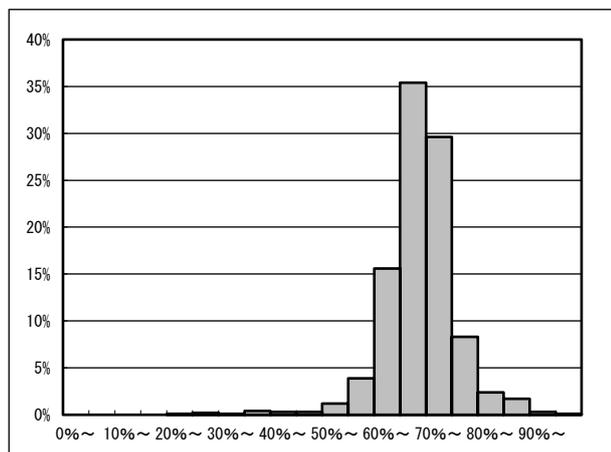
(6) 学校の状況

○ 各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、令和3年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

[国語]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率	学校の中央値	学校の標準偏差
9,753校	9.6 / 14問	68.8%	69.0%	7.2%

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：学校の割合）

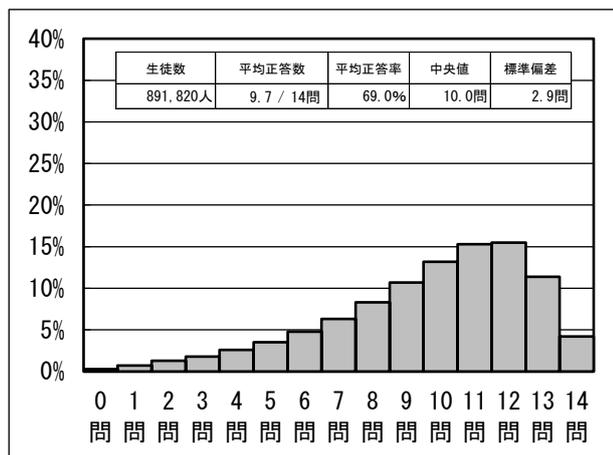


(7) 国・公・私立学校の状況

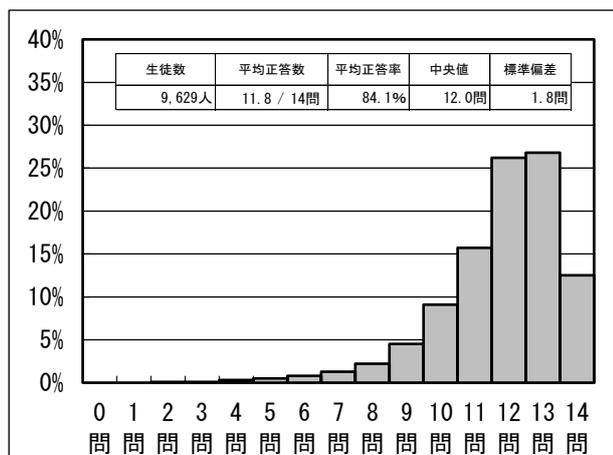
○ 国立・私立学校は一般的に入学者選抜を行っていることに留意する必要があるが、平均正答数について見ると、国立・私立学校は、公立学校を上回っている。

[国語]

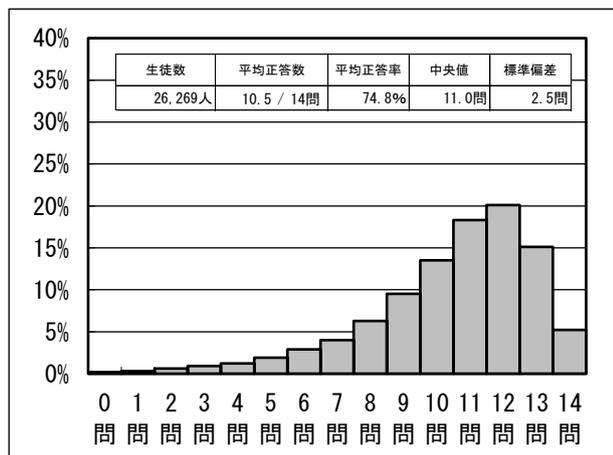
<公立> 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



<国立> 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



<私立> 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

(1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方

調査問題について、出題の趣旨、学習指導要領における内容、解答類型と反応率、分析結果と課題、学習指導に当たってなどを記述しています。

問題画像
調査問題を縮小して掲載しています。
※著作権の都合により一部を省略しているものもあります。

出題の趣旨
問題ごとに出題の意図、把握しようとする力、場面設定などを記述しています。

趣旨
設問ごとの出題の意図、把握しようとする力などを記述しています。
■学習指導要領における内容
調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実を図る際に参考となるように、関係する学習指導要領における内容を示しています。

1. 解答類型と反応率
解答類型ごとの反応率、正答の条件を示しています。（詳細は下欄参照）

※図はイメージです。

教科名○ ……………

問 題 画 像

出題の趣旨
.....
.....

設問○
趣旨
.....

■学習指導要領における内容
〔第○学年〕

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型	反 応 率 (%)	正 答
○	1	◎
	2	
	3	
	4	
	99 上記以外の解答	..	
	0 無解答	..	

解答類型と反応率

解答類型は、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。正誤だけではなく、児童生徒一人一人の解答の状況（どこでつまづいているのか）等に着目した学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

<正答>

「◎」… 解答として求める条件を全て満たしている正答

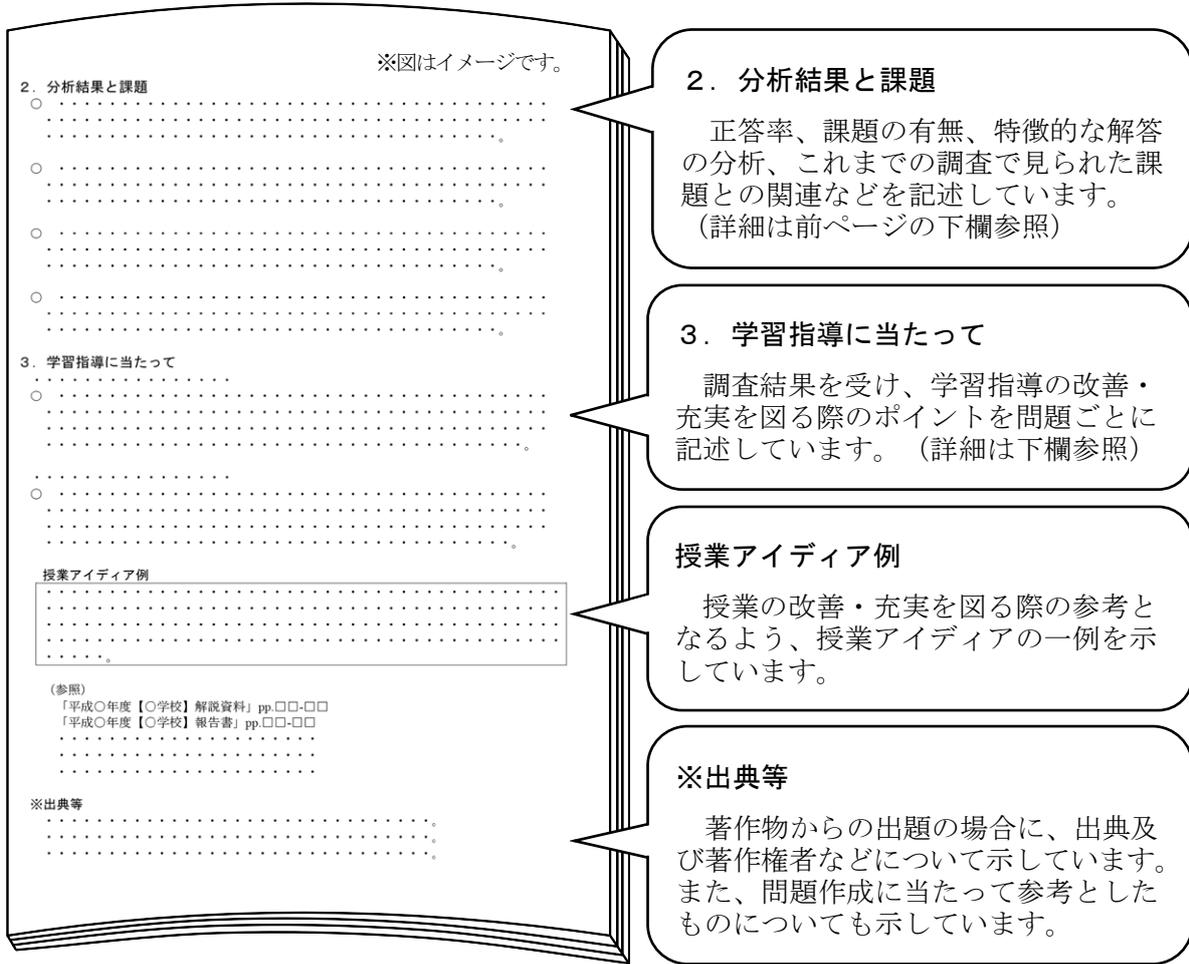
「○」… 問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

※反応率は小数第二位を四捨五入したものであるため、「◎」と「○」の反応率の合計と正答率が一致しない場合や合計が100%にならない場合があります。クロス集計についても同様です。

分析結果と課題

問題ごとに、以下の内容について記述しています。

- ・ 正答率、課題の有無
- ・ 特徴的な解答について、反応率、解答例、課題の詳細
- ・ これまでの調査で見られた課題との関連 など



学習指導に当たって（授業アイデア例含む）

調査問題に関係する内容について、各学年での日々の学習指導の改善・充実を図る際に「解説資料」（本年4月公表）と併せて御活用ください。

また、今年度から、授業の改善・充実により資するよう、これまで別途作成していた「授業アイデア例」を本書に掲載し、調査結果の課題分析と課題の解決を図る事例を一体的に示すことといたしました。

なお、関連する過去の調査の報告書や授業アイデア例など、これまで作成した資料の該当ページを記載していますので、これらの資料も併せて御活用ください。

本書では、以下の資料については略称を用いています。

資 料	略 称
「平成〇年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 ○学校 ○〇」	「平成〇年度【○学校】解説資料」
「平成〇年度 全国学力・学習状況調査 報告書 ○学校 ○〇」	「平成〇年度【○学校】報告書」
「平成〇年度 全国学力・学習状況調査【○学校】の結果を踏まえた授業アイデア例」	「平成〇年度【○学校】授業アイデア例」
「令和2年度 全国学力・学習状況調査 調査問題活用の参考資料 ○学校 ○〇」	「令和2年度【○学校】活用の参考資料」
「令和〇年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 ○学校 ○〇」	「令和〇年度【○学校】解説資料」
「令和〇年度 全国学力・学習状況調査 報告書 ○学校 ○〇」	「令和〇年度【○学校】報告書」
「令和〇年度 全国学力・学習状況調査【○学校】の結果を踏まえた授業アイデア例」	「令和〇年度【○学校】授業アイデア例」

3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

(2) 中学校 国語

国語 1 スピーチをする（「最近気になったこと」）

1 川口さんは、国語の時間に、最近気になったことについてスピーチをする学習に取り組んでいます。川口さんは、動画に自分のスピーチを記録し、それを田中さんに見せて助言をもらっています。次の「川口さんのスピーチ」と「二人の会話の一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。

川口さんのスピーチ

最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。その変化は、学校での学習にも表れていると思います。例えば、授業でインターネットを活用する機会が増えました。特に、オンラインで離れた場所にいる人と会話をすることもできて、その便利さを実感しています。一方で、相手と直接会って、いないので、やりとりをスムーズに行いにくいという面もあるのではないかと思っています。

動画を止める

先日、総合的な学習の時間で、離れた場所にいる施設の方にオンラインでインタビューをしたことです。私は、画面を通してやりとりをしているという状況に気が取られて、相手に必要最小限

二人の会話の一部



田中さん 川口さん

田中 ここまで動画を止めてもらえますか。「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます」という部分は、聞き手を引き付けるために、呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみました。どうでしょうか。「やりとりをスムーズに行いにくい」という部分は、私も同じように感じたことがあり、この後のスピーチの内容に興味をもつことができただけだと思います。川口 ありがとうございます。

川口 オンラインでインタビューをしたときのことを入れてみましたか、どうでしょうか。田中 身近な内容で共感できました。始めに話した」とつながっている点が良いと思います。

このことを伝えるだけで精一杯になってしまいました。そのため、相手の反応を踏まえてやりとりをすることができていないと感じました。後日、そのことを友達に話したところ、「私は、相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました」と話してくれました。

動画を止める

動画を止める

田中 川口さんが伝えたい内容は分かりました。ただ、スピーチの冒頭から同じ調子で話しているの、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫してみてください。例えば、「オンラインで離れた場所にいる人と会話をすること」という部分は、伝えたい内容に関係することなので、聞き手に関心をもってもらうために、ゆっくり大きな声で話すことではないでしょうか。川口 なるほど。他の部分も話し方を工夫してみます。

一 川口さんは、二人の会話の一部の——線部①「呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみました」という田中さんからの助言を受け、「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます」という部分に言葉を加えて直すことにしました。あなたなどのように直しますか。実際に話すように書きなさい。

二 二人の会話の一部で田中さんは、——線部②「始めに話した」とつながっている点が良い」と述べていますが、これを具体的に説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 インターネットの「便利さを実感」していること例として、総合的な学習の時間での自分の経験を挙げている点が良い。
- 2 インターネットの「便利さを実感」していること例として、友達と話してくれた言葉を挙げている点が良い。
- 3 「やりとりをスムーズに行いにくい」ということ例として、総合的な学習の時間での自分の経験を挙げている点が良い。
- 4 「やりとりをスムーズに行いにくい」ということ例として、友達と話してくれた言葉を挙げている点が良い。

三 二人の会話の一部に——線部③「他の部分も話し方を工夫してみます」とありますが、あなたなどの部分をどのように工夫して話しますか。次の条件1と条件2にしたがつて書きなさい。
なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加たりしてもかまいません。

- 条件1 「川口さんのスピーチ」のどの部分をどのように工夫して話すのかについて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに着目して具体的に書くこと。
- 条件2 条件1のように話す意図を書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

出題の趣旨

- ・ 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫すること
- ・ 論理の展開などに注意して聞くこと
- ・ 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと

「A話すこと・聞くこと」の学習においては、「話題の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討、考えの形成（話すこと）」、「表現、共有（話すこと）」、「構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）」、「話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）」に関する各指導事項を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。「話題の設定、情報の収集、内容の検討」に関する指導事項は、「話すこと」、「聞くこと」、「話し合うこと」に共通する指導事項である。指導計画の作成に当たっては、「A話すこと・聞くこと」の学習は、話し手と聞き手との関わりの中で成立する学習であり、「話すこと」、「聞くこと」、「話し合うこと」の各指導事項は相互に密接な関連があることに留意する必要がある。

スピーチなどの言語活動を行う際には、話し手は、自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるために、場の状況や聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりして話すことが大切である。また、聞き手のうなずきや表情にも注意し、話の受け止め方や理解の状況を捉え、聞き手に自分の考えが十分伝わっていないと感じられたときには、分かりやすい語句に言い換えたり内容を補足したりすることも重要である。聞き手は、話の展開に注意しながら内容を聞き取り、互いの考えを比較したり、聞き取った内容や表現の仕方を評価したりすることが大切である。

本問では、自分のスピーチを動画に記録して友達から助言をもらう場面を設定した。聞き手を引き付けるような表現になるようにスピーチの内容を直したり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などの話し方について考えたりすることに加え、スピーチについて聞き手がどのように受け止めているかについて考えることを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ア 紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ア 説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする活動。

(参考)

〔第3学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ア 提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動。

設問一

趣旨

聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。
《表現、共有（話すこと）》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
①	— (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という部分について、どのような言葉を加えて直すと呼びかけたり問いかけたりする表現になるかが分かるように書いている。 ② 実際に話すように書いている。 (正答例) ・ 皆さん、最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じませんか。 ・ 最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。皆さんもそう思いませんか。		
	1 条件①、②を満たして解答しているもの	75.0	◎
	2 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	0.2	
	3 条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	19.4	
	99 上記以外の解答	1.6	
	0 無解答	3.7	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 皆さんの中で、最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じたことのある人もいます。

このように解答した生徒は、話し手の伝えようとしている内容を踏まえることはできているが、どのような言葉を加えて直すと呼びかけたり問いかけたりする表現になるかについて考えることができていない。

(例)

- ・ 最近、これまでとは違っていませんか。
- ・ 皆さんもふだんの生活でインターネットを使用しているのではないのでしょうか。

このように解答した生徒は、呼びかけたり問いかけたりする表現にすることはできているが、話し手が伝えようとしている内容を伝えることができていない。

3. 学習指導に当たって

聞き手を意識し、自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫する

自分の考えを話す際には、場の状況や聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、聞き手に応じた語句を選択したり、呼びかけや問いかけをしたりするなどして、相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫することが大切である。

例えば、複数のスピーチを比較し、それぞれの話し方の工夫について確かめるなどの学習活動が考えられる。その際、ペアやグループでそれぞれのスピーチを比べたり、他学年のスピーチの動画を視聴したりして、分かりやすく伝えるための具体的な工夫について考えるように指導することも重要である。

設問二

趣旨

論理の展開などに注意して聞くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

エ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 《構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
①	二	1	1と解答しているもの	11.0	
		2	2と解答しているもの	5.9	
		3	3と解答しているもの	65.6	◎
		4	4と解答しているもの	17.4	
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	0.1	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1、2、4の反応率の合計は34.3%である。このように解答した生徒は、話し手が伝えようとしている内容と、その内容を分かりやすく伝えるために挙げた事例との関係を捉えることができず、話全体がどのようにまとめられようとしているのかを考えることに課題がある。

解答類型1、2の生徒は、川口さんが「一方で、相手と直接会っていないので、やりとりをスムーズに行いにくい」と述べていることを捉えることができているものと考えられる。解答類型4の生徒は、「やりとりをスムーズに行うための方法の一つである「相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました」という「友達が話してくれた言葉」を、「やりとりをスムーズに行いにくい」ということの例と捉えたものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

情報同士の結び付きに注意しながら聞く

話し手の考えを聞いて自分の考えをまとめる際には、情報同士の結び付きに注意しながら、話の要点を捉えたり、意見に対する根拠の適切さを判断したりして聞くことが大切である。その際、第2学年〔知識及び技能〕の(2)「ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。」との関連を図り、意見を裏付けるためのより適切な根拠の在り方について理解を深めるように指導することが有効である。

例えば、互いのスピーチを聞き合って質問や助言をする場面を設定するなど、自分が聞き取って理解したことや考えたことを確かめたり共有したりするなどの学習活動が考えられる。

設問三

趣旨

自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。 《話し言葉と書き言葉》

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 《表現、共有(話すこと)》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
①	三	(正答の条件) ① 【川口さんのスピーチ】の中から、「オンラインで離れた場所にいる人と会話をする」という部分以外を具体的に挙げて書いている。 ② ①で挙げた部分をどのように工夫して話すのかについて、以下のa、bの両方またはいずれかに着目して具体的に書いている。 a 言葉の抑揚や強弱、間の取り方など音声での表現の仕方に着目した工夫。 b 視線の方向など、a以外の話し方の工夫。 ③ ②のように話す意図を書いている。		
		(正答例) ・ 「オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったのです。」という部分が一番伝えたいことなので、他の部分よりも大きな声で話す。(解答類型1) ・ 私は、自分が一番伝えたいことに着目してもらうために、「この言葉を聞いてはっとしました。」のあとに少し間を取ります。(解答類型1) ・ 「相手の反応を踏まえたやりとりをすることができていない」という部分の語調を強めて、課題だと感じていることを強調したい。(解答類型1) ・ 「やりとりをスムーズに行にくいという面もある」の部分の印象を強めるために、聞いている人たちを見渡しながらか話す。(解答類型2)		
	1	条件①、②a、③を満たして解答しているもの * ②bを同時に満たして解答しているものを含む。	52.1	◎
	2	条件①、②b、③を満たして解答しているもの	0.2	◎
	3	条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	5.7	
	4	条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	3.9	
	5	条件②、③を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	8.5	
	99	上記以外の解答	13.6	
0	無解答	15.9		

2. 分析結果と課題

○ 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 「オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったのです。」という部分をゆっくり大きな声で話す。
- ・ 「この言葉を聞いてはっとしました。」の「はっと」のところを強く言ったらよいと思う。

このように解答した生徒は、【川口さんのスピーチ】の中から工夫したい部分を取り上げて、どのように工夫して話すのかについて具体的に考えることはできているが、そのように話す意図を示すことができていない。

- 解答類型4について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 「私は、相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました。」という部分は、大切なことなので、強弱を工夫して話すとういと思います。

このように解答した生徒は、【川口さんのスピーチ】の中から工夫したい部分を具体的に取り上げて、その部分を工夫する意図を示すことはできているが、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを、どのように工夫して話すのかについて具体的に考えることができていない。

- 解答類型5について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 聞いている相手に、どこが自分の一番伝えたいところなのかを知ってもらうために、その部分をゆっくり大きな声で強調して話すとういのではないのでしょうか。

このように解答した生徒は、どのように工夫して話すのかについて具体的に考え、そのように話す意図を示すことはできているが、【川口さんのスピーチ】の内容を踏まえて話のどの部分を工夫するのかを具体的に考えることができていない。

3. 学習指導に当たって

音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話す

自分の考えが分かりやすく伝わるように話すためには、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、表現を工夫することが大切である。指導に当たっては、第1学年〔知識及び技能〕の(1)「ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。」との関連を図り、アクセント、イントネーション、プロミネンス（文中のある語を強調して発音すること）などの音声的特質が多様な声を作り出し、話したり聞いたりする活動に影響していることが認識できるように、実際に声に出しながら工夫を考えたり効果を確認したりすることが重要である。

例えば、ICT 機器を活用してスピーチの様子を動画で記録し、話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確認したりするなどの学習活動が考えられる。その際、聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら話す内容や話し方を検討したり、なぜそのように表現を工夫したのか、その意図を明確にして工夫したことの効果を確認したりする場面を設定することも考えられる。具体的な授業のアイディアの一例を次に示す。

授業アイデア例 音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話す

【課題の見られた問題と学習指導要領における内容】

設問三 正答率 52.3%

〔第1学年〕知識及び技能 (1)

ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 A

ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

教材例

- 令和4年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語¹
- 教師が作成したスピーチ、教科書に掲載されているスピーチ

学習の流れ

第1時

① 学習の見通しをもつ。



教師

「最近気になったこと」について、自分の考えが聞き手に分かりやすく伝わるように工夫してスピーチをする学習をします。まずは、自分が話す内容を決め、実際にスピーチをしてみましょう。次に、スピーチをする上での工夫についてみんなで考え、自分のスピーチに生かしましょう。

② スピーチの内容を考える。

③ 各自で実際にスピーチを行い、その様子を動画に記録する。

第2時

④ 教師が提示したスピーチの内容を基に、表現の工夫について考える。



自分だったらどこをどのように工夫するのかを、書き加えましょう。その際、どうしてそのように工夫するのか、その意図についても明確にしておきましょう。

〔生徒が表現の工夫を書き加えたワークシートの一部〕

聞き手に考えが分かりやすく伝わるように、表現を工夫しよう。

スピーチのテーマ「最近気になったこと」

問いかけ
最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。その変化は、学校での学習にも表れていると思います。例えば、授業でインターネットを活用する機会が増えました。

少し間を取る
この言葉を聞いてはっとしました。オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったのです。

少し間を取る
大きな声でゆっくり

⑤ 考えた工夫とその意図を伝え合い、実際に声に出して試しながら交流する。

〔交流している場面の例〕



私だったら、聞き手が話題に興味をもってくれるように最初のところで問いかけたいと思います。「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じませんか。」どうでしょう。

そうですね。問いかけられると、自分はどうなのか考えさせられますね。私なら、友達の言葉によって気付かされたことを強調したいので、「この言葉を聞いてはっとしました。」のところが驚いたように言いたいです。やってみますね。(声に出してみる)



確かに、驚いたことは伝わります。それもよいのですが、むしろ何にはっとしたかを伝えることが大事なので、私ならその後の部分をゆっくり言います。

ポイント

表現の工夫はいろいろありますが、自分の考えを分かりやすく伝える上で必要などころに、適切な表現の工夫をすることが大切です。自分のスピーチの表現も工夫してみましょう。



⑥ ③で録画した自分のスピーチを見直ししながら、表現の工夫を考える。

第3時

- ⑦ グループでスピーチを聞き合い、表現の工夫によって自分の考えが分かりやすく伝わったかを確認する。
- ⑧ 学習を振り返る。

【他学年で活用する際のポイント】

- 第2学年で、「A話すこと・聞くこと」の(1)ウの指導事項について指導する場合には、④～⑦で資料や機器を用いるなどして表現を工夫することが考えられる。
- 第3学年で、「A話すこと・聞くこと」の(1)ウの指導事項について指導する場合には、④～⑦で場の状況に応じて言葉を選ぶなどして表現を工夫することが考えられる。

【コラム①】「A話すこと・聞くこと」の指導における〔知識及び技能〕の位置付けの工夫～「話し方」の知識や技能を工夫として使えるようにするために～

- 〔知識及び技能〕に示されている事項は、国語で理解したり表現したりする様々な場面で生きて働くものとして身に付けるために、〔思考力、判断力、表現力等〕に示されている事項の指導を通して指導することを基本としています。

本問で求めている話し方の工夫についての知識や技能は、〔知識及び技能〕の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」の小学校第3学年及び第4学年の「イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。」で学習している内容です。小学校で学習した知識や技能を、中学校の学習の中で目的や状況に応じて試行錯誤しながら使うことにより、生きて働くものとして習得されます。

スピーチで話し方を工夫する際には、まず、スピーチの目的を確認し、自分が最も伝えたいことを明らかにした上で、工夫すべき部分と具体的な工夫を考えることが大切です。その際、工夫には様々な種類（使う言葉の工夫、音声の工夫、音声以外の振るまい等に関わる工夫等）があることを確認し、それを整理して示すことで、生徒は学んできたことを想起し、自らの意図に合わせた効果的な工夫をしながら、話すことができるようになります。

〔板書例〕

<p>□ 工夫する意図</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大切な部分を強調する。 ・ 分かりにくい部分を分かりやすく伝える。 ・ スピーチの冒頭の部分で、話題に興味・関心をもたせる。 	<p>□ 工夫の仕方</p> <table border="1"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>使う言葉の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の選択 ・ 言葉遣い ・ 問いかける表現 ・ 呼びかける表現 ・ 区切り 等 </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>音声の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抑揚 ・ 強弱 ・ 音量 ・ 速度(緩急) 間の取り方 等 </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>振るまい等に関わる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身振り ・ 視線 ・ 表情 ・ 姿勢 等 </td> </tr> </table>	<p>使う言葉の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の選択 ・ 言葉遣い ・ 問いかける表現 ・ 呼びかける表現 ・ 区切り 等 	<p>音声の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抑揚 ・ 強弱 ・ 音量 ・ 速度(緩急) 間の取り方 等 	<p>振るまい等に関わる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身振り ・ 視線 ・ 表情 ・ 姿勢 等 	<p>◎ 聞き手に自分の考えが分かりやすく伝わるように、表現を工夫しよう。</p> <p>□ スピーチを通して最も伝えたいこと</p> <p>() を伝える。</p>
<p>使う言葉の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の選択 ・ 言葉遣い ・ 問いかける表現 ・ 呼びかける表現 ・ 区切り 等 	<p>音声の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抑揚 ・ 強弱 ・ 音量 ・ 速度(緩急) 間の取り方 等 	<p>振るまい等に関わる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身振り ・ 視線 ・ 表情 ・ 姿勢 等 			

国語 2 意見文を書く（「先端技術との関わり方」）

- 2 小林さんは、国語の時間に、「先端技術との関わり方」というテーマで意見文を書いています。次は、文書作成ソフトを使って小林さんが書いた【意見文の下書き】と友達が書いた【コメントの一部】、小林さんがコメントを受けて集めた【農林水産省のウェブページにある資料の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【意見文の下書き】

私たちの生活は、先端技術により、わずかな期間で大きく様変わりしてきている。便利なることが増えてよいと感じるが、目的に応じて選択して活用することが大切だと思う。

そう考えるようになったのは、農業を営み、広大な農地を二人で管理している祖父母に、スマート農業についての話を聞いたからだ。祖父母は、今年に入ってからロボットトラクタを導入し、作業の一部を自動化した。そのおかげで、農地を耕したり種をまいたりすることに加え、草を取りのぞく作業も効率よく進むようになったという。負担が軽減したことをよろこんでいる祖父母に、他に取り入れているものはないかを聞いてみた。すると、「スマート農業に関連する様々な先端技術はあるが、これまでの経験を生かして対応できるので、他には取り入れていない。」とのことだった。スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。しかし、祖父母は、自分たちに必要なものを選択して活用していた。

これは、私たちも意識しなければならないことだと思った。今後、身の回りには様々な先端技術がさらに普及していくだろう。私も祖父母のように、目的に応じて選択しながら先端技術を活用していきたい。

【コメントの一部】

上野
他にどのような効果があるのかを具体的に書いた方がよいのではないのでしょうか。

中村
私も同感です。スマート農業の効果を書き加えることで、小林さんが、自分の考えの根拠として示しているこの段落の内容が分かりやすくなると思います。

【農林水産省のウェブページにある資料の一部】

スマート農業について

「農業」 × 「先端技術」 = 「スマート農業」

「スマート農業」とは、「ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業」のこと。

➡ 「生産現場の課題を先端技術で解決する！農業分野におけるSociety5.0*の実現」

※Society5.0：政府が提唱する、テクノロジーが進化した未来社会の姿

スマート農業の効果

① 作業の自動化
ロボットトラクタ、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に

② 情報共有の簡易化
位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に

③ データの活用
ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に

（農林水産省ウェブページによる。）

（注1） AI=人工知能。

（注2） IoT（アイオーティー）=自動車や電化製品などの様々なものがインターネットに接続されているシステム。

（注3） センシングデータ=センサーを利用して計測・判別し、収集した情報。

一 小林さんは、「意見文の下書き」の〰〰〰線部の文末を「自動化したそうだ」に直すことにしました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 祖父母が否定している内容であることを明確にしようとした。
- 2 祖父母の話から推測した内容であることを明確にしようとした。
- 3 祖父母が希望している内容であることを明確にしようとした。
- 4 祖父母から聞いた内容であることを明確にしようとした。

二 〰線部①と〰線部②のひらがなを漢字に直し、楷書かがいしでていねいに書きなさい。

三 小林さんは、上野さんと中村さんからの【コメントの一部】を踏まえて、で囲まれた「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。」のすぐあとに、スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から必要な情報を引用して書くこと。

条件2 「例えば、」に続けて書くこと。

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

例えば、

出題の趣旨

- ・ 助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うこと
- ・ 文脈に即して漢字を正しく書くこと
- ・ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと

「B書くこと」の学習においては、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」、「共有」に関する各指導事項を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。指導計画の作成に当たっては、書くことに関する資質・能力が確実に育成できるように、実際に文章を書く活動を多くすることが必要である。その際、生徒の実態等に即して、〔知識及び技能〕に示された各指導事項との関連を図ることも重要である。

意見文を書く際には、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切である。根拠を明確にするためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要である。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。また、分かりやすい文章にするために、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことも大切である。その際、読み手は、書き手の目的と意図を理解した上で、単なる印象ではなく、具体的な記述を取り上げて助言などをすることが重要である。

本問では、文書作成ソフトを使って意見文の下書きを書く場面を設定した。文末を直す意図について考えたり、文脈に即して漢字を正しく書いたりするとともに、考えの根拠が明確になるように、資料から必要な情報を引用して書き加えることを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ア 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。

(参考)

〔第3学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。

設問一

趣旨

助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。《文や文章》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
②	—	1	1と解答しているもの	1.2	
		2	2と解答しているもの	9.7	
		3	3と解答しているもの	6.3	
		4	4と解答しているもの	82.6	◎
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	0.2	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1～3の反応率の合計は17.2%である。このように解答した生徒は、助動詞「そうだ」の働きについて理解し、目的に応じて使うことに課題がある。前の文との関係を捉えた上で、文末を「自動化した」から「自動化したそうだ」に直すことにより、祖父母から伝え聞いた内容であることを明確に表現しようとしていることを捉えることができていないものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

助詞や助動詞の働きを理解し、文や文章の中で使う

助詞や助動詞の働きを踏まえ、場面に応じて適切に使い分けられることができるように指導することが引き続き大切である。助詞は、単語と単語との関係を示したり、意味を添えたりする働きをもつ品詞であり、助動詞は、意味を付け加え叙述を助けたり判断を示したりする品詞である。これらの付属語を使うことによって、自分が伝えたい微妙なニュアンスを相手によりよく伝えることができることを理解し、話や文章の中で適切に使うことができるように指導することが重要である。

例えば、自分の考えを述べる文章を書く学習活動の中で、助詞や助動詞の働きに注目して文章を読み直し、分かりやすい文章に整えていくことなどが考えられる。

設問二

趣旨

文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 知識及び技能

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 《漢字》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型			反応率 (%)	正答
②	二 ①	1	「除(く)」と解答しているもの	82.4	◎
		99	上記以外の解答	9.0	
		0	無解答	8.6	
	二 ②	1	「喜(んで)」と解答しているもの	80.7	◎
		99	上記以外の解答	16.1	
		0	無解答	3.2	

2. 分析結果と課題

- ①の解答類型99について、「徐」や「退」などという誤答が見られた。
- ②の解答類型99について、「嬉」や「善」などという誤答が見られた。

3. 学習指導に当たって

漢字を正しく用いる態度と習慣を養う

漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切である。漢字の書きについては、小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのため、文章の中ばかりではなく、「A話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するようにすることが大切である。また、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことも大切である。その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。なお、漢字の読みについては、学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字に加え、中学校修了までに学年別漢字配当表以外の常用漢字の大体を読むことを求めている。

設問三

趣旨

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(2) 情報の扱い方に関する事項

イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。 《情報の整理》

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ウ 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

《考えの形成、記述》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
②	三	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から適切な情報を抜き出して書いている。 ② 引用する部分をかぎかっこ(「 」)でくくって書いている。 ③ 「例えば、」に適切に続くように書いている。 ~~~~~ (正答例) ・ (例えば、) 農林水産省のウェブページにある資料には、作業の自動化以外に「情報共有の簡易化」と「データの活用」が示されている。 ・ (例えば、) 農林水産省の資料によると、「作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に」なったり、「農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に」なったりすることが示されている。 ・ (例えば、) 資料には、「熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能」な「情報共有の簡易化」なども効果として挙げられている。		
	1	条件①、②、③を満たして解答しているもの	46.5	◎
	2	条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0.1	
	3	条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	40.4	
	4	条件②、③を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	0.7	
	99	上記以外の解答	3.5	
	0	無解答	8.8	

2. 分析結果と課題

○ 平成31年度【小学校】国語①三（正答率28.9%）において、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと」に課題が見られた。これに関連して、本問では、考えの根拠が明確になるように資料から必要な情報を引用して意見文の一部を書くことを求めたが、正答率は46.5%であった。解答類型1や3の反応率から、考えを支える適切な情報を取り出して書くことは身に付いてきているが、根拠を明確にするための適切な引用の仕方の理解については課題があると考えられる。

(参考)

○関連する問題

【小学校】

問題番号	問題の概要	正答率	解説資料	報告書
H31①三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の <input type="text"/> に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	28.9%	pp.12-23	pp.20-37

1

高橋さんの学級では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することになりました。高橋さんは、公共電話について調べています。次は、高橋さんが書いてある「報告する文章」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【報告する文章】



公共電話について

高橋 めぐみ

1 はじめに
先日外出したときに、家に電話をかけようと思った店に行くと、あつたはずの公共電話がなくなっていました。こままってしまいました。また、よく行く公園の公共電話も、いつの間にかなくなっていました。わたしは、公共電話の数が減っているのではないかと、思い、町の公共電話の数を調べてみました。それをまとめたものが「資料1」です。平成二十年度から十九年度までの十年間で、約半分にまで減っていることが分かりました。そこで、公共電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうかどうか調べてみることにしました。

2 調査の内容と結果

(1) 公共電話はどのようなときに必要なのか
多くの人を聞いた、電話を持つ中で、公共電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。そこで、地いきの人三十人を調査の友だちとして、公共電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが「資料2」です。「けいたい電話をわすれたときに必要」「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。このことから、公共電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされていることが分かりました。

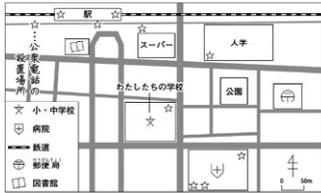
(2) 公共電話はどのような使い方をしているのか
公共電話について書かれた資料を調べてみると、公共電話には、次のような使い方がありました。
・警察署(110番)や消防署(119番)には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができます。
・停電のときでも、硬貨を使って通話することができます。
・電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。
このように、公共電話は、きん急のときにも使うことができるということが分かりました。

3 調査の結果をもとに考えたこと

(3) 公共電話はどのような場所にあるのか
公共電話を必要とするときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを調べて知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公共電話の設置場所を調べてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが「資料3」です。
この資料から、公共電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。

また、公共電話を使いたくないときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかと、いうことも考えました。今回の調査を通して知ったことを、学級の友達に、かき送りたいと思います。

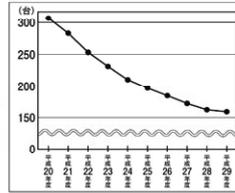
「資料3」 公共電話の設置場所を示した地図



「資料2」 公共電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人

「資料1」 公共電話設置台数の移り変わり



一 (略)

二 (略)

三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の [] に「2 調査の内容と結果」の (1) と (2) で分かったことをまとめて書いています。 [] に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 「2 調査の内容と結果」の (1) と (2) の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 「報告する文章」にふさわしい表現で書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても構いません。解答は、解答用紙に書きましょう。 ※◆の印から書きましょう。どちらで打っても構いません。解答は、解答用紙に書きましょう。

調査の結果から、公共電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。

なぜなら、

70字

40字

四 (略)

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
①	三	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から、分かったことについて言葉や文を取り上げて書いている。 ② 【報告する文章】にふさわしい表現で書いている。 ③ 書き出しの言葉に続けて、40字以上、70字以内で書いている。 (正答例) ・ (「なぜなら、)公しゅう電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされていたり、きん急のときにも使うことができたりするからです。(68字)		
	1	条件①, ②, ③を満たしているもの	28.9	◎
	2	条件①, ②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.0	
	3	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	7.4	
	4	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもののうち、「2 調査の内容と結果」の(1)からのみ、分かったことについて言葉や文を取り上げて書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	19.5	
	5	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもののうち、「2 調査の内容と結果」の(2)からのみ、分かったことについて言葉や文を取り上げて書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	7.1	
	6	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもののうち、「2 調査の内容と結果」の(1)や(2)から、分かったこと以外の内容について言葉や文を取り上げて書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	10.3	
	7	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもののうち、「2 調査の内容と結果」の(3)から、言葉や文を取り上げて書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	1.0	
	8	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもののうち、「1 はじめに」や「3 調査の結果をもとに考えたこと」から、言葉や文を取り上げて書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	0.8	
	99	上記以外の解答	21.3	
0	無解答	3.7		

- 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ (例えば、) アプリの活用により熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能になる情報共有の簡易化や、様々なAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能になるデータの活用があります。

このように解答した生徒は、【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から情報を引用するにあたって、必要な部分をそのまま抜き出し、かぎかっこ(「 」)でくることができていない。

(例)

- ・ (例えば、) 農林水産省の資料によると、「作業の記録をデジタル化し、誰でも生産活動の主体になることが可能に」なったり、「農作物の生育を予測し、高度な農業経営が可能に」なったりすることが示されている。

このように解答した生徒は、【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から情報を引用するにあたって、引用箇所をかぎかっこ(「 」)でくくることは理解できているが、そのまま抜き出すことができていない。

3. 学習指導に当たって

考えの根拠が明確になるように情報を引用して書く

意見文を書く際には、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切である。そのためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要である。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。根拠を記述するに当たっては、根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用することなどが考えられる。

例えば、第1学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の(2)「ア 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。」などとの関連を図り、資料から必要な部分を引用して自分の考えを伝える文章を書き、互いに読み合うなどの学習活動が考えられる。その際、第1学年〔知識及び技能〕の(2)「イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。」との関連を図り、引用の仕方について理解を深めるように指導することが有効である。また、生徒の実態に応じて、意見文を書く学習に先立ち、本問を活用した学習活動を行うことも考えられる。具体的な授業のアイデアの一例を次に示す。

授業アイデア例 考えの根拠が明確になるように情報を引用して書く

【課題の見られた問題と学習指導要領における内容】

設問三 正答率 46.5%

〔第1学年〕知識及び技能 (2)

イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 B

ウ 根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

教材

● 令和4年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語2 (改変)

※ 本アイデア例では、調査問題の【意見文の下書き】に下線部を書き加えて、小林さん、石田さん、山口さんのコメントを追加したものを用いています。

学習の流れ

1 学習の見通しをもつ。



教師

自分の考えが伝わる意見文にするために、本やウェブページなどから資料を引用することがあります。今日は、【意見文の下書きとコメントの例】を使って、引用の際に気を付けることを考えてみましょう。この例では、筆者である小林さんが、意見文の下書きをグループの人に読んでもらい、コメントをもらって文章をよりよくしようとしています。まず、石田さんと山口さんがどのようなコメントをしているか、確認してみましょう。

【意見文の下書きとコメントの例】

私たちの生活は、先端技術により、わずかな期間で大きく様変わりしてきている。便利なが増えてよと感じるが、目的に応じて選択して活用することが大切だと思う。

そう考えるようになったのは、農業を営み、広大な農地を二人で管理している祖父母に、スマート農業について話を聞いたからだ。祖父母は、今年入ってからロボットトラクタを導入し、作業の一部を自動化した。そのおかげで、農地を耕したり種をまいたりすることに加え、草を取り除く作業も効率よく進むようになったという。負担が軽減したことを喜んでいる祖父母に、他に取り入れているものはないかを聞いてみた。すると、「スマート農業に関連する様々な先端技術はあるが、これまでの経験を生かして対応できるので、他には取り入れていない。」とのことだった。

スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。 例えば、農林水産省の資料によると「作業の自動化で人手を省くことが可能に」なったり、「作業の記録をデジタル化し、誰でも生産活動の主体になることが可能に」なったりすることに加え、「農作物の生育を予測し、高度な農業経営が可能に」なったりすることが示されている。しかし、祖父母は、自分たちに必要なものを選択して活用していた。

これは、私たちも意識しなければならないことだと思った。今後、身の回りには様々な先端技術がさらに普及していくだろう。私も祖父母のように、目的に応じて選択しながら先端技術を活用していきたい。

上野

他にどのような効果があるのかを具体的に書いた方がよいのではないのでしょうか。

中村

私も同感です。スマート農業の効果を書き加えることで、小林さんが、自分の考えの根拠として示しているこの段落の内容が分かりやすくなると思います。

小林

農林水産省の資料を引用して書き加えてみましたがどうでしょうか。

石田

様々な情報が書き加えられたので、根拠がはっきりしたと思います。

山口

作業を自動化すること以外の効果を取り上げたのはよいですが、「 」で引用している部分が資料の文章とは違っています。

【農林水産省のウェブページにある資料の一部】

スマート農業について

「農業」×「先端技術」＝「スマート農業」

「スマート農業」とは、「ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業」のこと。

➡「生産現場の課題を先端技術で解決する！農業分野におけるSociety5.0[※]の実現」

※Society5.0：政府が提唱する、テクノロジーが進化した未来社会の姿

スマート農業の効果

- ① 作業の自動化
ロボットトラクタ、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に
- ② 情報共有の簡易化
位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に
- ③ データの活用
ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に

(農林水産省ウェブページによる。)

(注1) AI=人工知能。

(注2) IoT(アイオーティー) = 自動車や電化製品などの様々なものがインターネットに接続されているシステム。

(注3) センシングデータ=センサーを利用して計測・判別し、収集した情報。

- ② グループで【意見文の下書きとコメントの例】を読み、石田さんと山口さんのコメントについて検討する。

〔生徒の発言の例〕

小林さんは、上野さん、中村さんのコメントを読んで、スマート農業の「作業を自動化すること」以外の効果を書き加え、その適切さを尋ねていますね。



山口さんのコメントの中にもありますが、引用するときは、元の文章を変えず、そのまま正確に抜き出す必要があります。



そうですね。それから石田さんのコメントについてですが、確かに資料から情報は引用されていますが、本当にこれらの情報を全て入れる必要があるのでしょうか。



根拠となる情報を引用する際には、引用の仕方に気を付けましょう。また、自分の考えの根拠を明確にするために必要な情報を取り上げているか確かめることが大切です。これらのことに気を付けて、小林さんが書き加えた文を修正してみましょう。

- ③ 各自でノートに修正案を書き、グループで交流する。

〔書き直した文の例①〕

例えば、農林水産省の資料によると、「作業の記録をデジタル化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に」なったりすることに加え、「農作物の生育を予測し、高度な農業経営が可能に」なったりすることが示されている。

〔例①を書いた生徒の発言の例〕

小林さんが修正した文の直前に、「スマート農業には作業を自動化する以外の効果もあるようだ」とあったので、「しかし、」につなげるためには、小林さんが書き加えた「作業を自動化」することについての情報は不要だと考えました。



【書き直した文の例②】

例えば、農林水産省のウェブページにある資料には、「作業の自動化」以外にも「熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能」な「情報共有の簡易化」と「農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に」なる「データの活用」が示されている。

【例②を書いた生徒の発言の例】

【農林水産省のウェブページにある資料の一部】には、スマート農業の効果が三つに分けて示されていて、それぞれに見出しが付いています。これらを使えば、読む人にとっても、分かりやすくなると思います。



④ 学習を振り返る。



考えの根拠が明確になるように資料から情報を引用して書く際には、どのような点に留意するとよいか振り返ってみましょう。

【生徒の発言をまとめた板書の例】



◎ 引用する際の留意点

- 資料中の言葉は省略したり書き換えたりすることなく、かぎかっこ「」でくくって書く。
- 自分の考えの根拠を明確にするために必要な情報を取り上げて書く。
- 単に引用するだけでなく、引用した箇所が前後の内容と適切につながっているか確かめる。
- 出典を明示する。



今後、引用して文章を書く際には、これらのことに留意して書きましょう。他教科等の学習や日常生活の場面で自分の考えを伝える際においても、自分の意見を支える根拠を明確にするようにしましょう。

【他学年で活用する際のポイント】

- 第2学年で、「B書くこと」の(1)ウの指導事項について指導する場合には、文章の説得力を増すために、②で根拠の適切さを検討する視点をもたせたり、③でどのような説明や具体例を加えると根拠の記述が具体的になるかを考えたりする場面を設定することなどが考えられる。
- 第3学年で、「B書くこと」の(1)ウの指導事項について指導する場合には、意見文を書く目的や意図を明確にした上で、自分の考えがよりよく伝わる文章にするために、②、③で、複数の資料から、客観性や信頼性を確認しながら引用する情報を選んだり、考えの根拠としてふさわしいかどうかについて検討したりする場面を設定することなどが考えられる。

※出典等

【農林水産省のウェブページにある資料の一部】は、農林水産省ウェブページによる。

国語 3 文学的な文章を読む（「都会のビーチ」）

3 次の文章は「子どもの日浅い水辺を海にして」という俳句から想像を広げることで生まれた小説です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

（堀本裕樹・田丸雅智『俳句でつくる小説工房』による）

(注1) 対峙：向き合って立つこと。ならみ合って対立すること。
(注2) 想像力たるや：想像力といったら。

(編本桐樹・田丸雅智「俳句でつくる小説上巻」による)

一 線部①「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書きなさい。(漢字、ひらがなのどちらでもよい)。また、それと同じ表現の技法が用いられているものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 } } } 線部②「ただ、と、おれは思う。」
- 2 } } } 線部④「ブルーシートを地面に広げ、真ん中に立てた大きなパラソルの下で涼む人」
- 3 } } } 線部⑦「猫のように素早く手を出し」
- 4 } } } 線部⑮「もっともっと前の話だと説明する。」

二 線部②「途方に暮れた」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 どうしてよいか分からなくなった
- 2 同じことを繰り返ししていた
- 3 なつかしくなった
- 4 夜になったことに気付いた

三 次のAからCまでの「おれ」の行動や心情を、話の展開に沿って順番に並べ替えるようになりますか。A、B、Cを適切に並べ替えて書きなさい。

- A 昔のことについて、母と電話で押し問答をする。
- B 息子の遊ぶ様子を見ながら、不意に妙になつかしさにとられる。
- C 息子への申し訳なきを募らせつつ、目の前の息子を頼もしく思う。

四 線部③「なるほど」とありますが、「おれ」は何を「なるほど」と思ったのですか。話の展開を取り上げて書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

<div style="border: 1px dashed black; width: 100%; height: 100%;"></div>
--

出題の趣旨

- ・ 表現の技法について理解すること
- ・ 事象や行為、心情を表す語句について理解すること
- ・ 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えること
- ・ 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈すること

「C読むこと」の学習においては、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成、共有」に関する各指導事項を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。指導計画の作成に当たっては、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱う必要がある。その際、生徒の日常の読書活動に結び付くようにすることも重要である。

文学的な文章を読み味わう際には、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うことが重要である。

本問では、俳句から想像を広げることで生まれた「都会のビーチ」という作品を取り上げた。話の展開に沿って登場人物の行動や心情について捉えたり、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、登場人物の心情について考えたりするとともに、文章中に用いられている表現の技法や、登場人物の心情を表す語句について考えることを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

(参考)

〔第3学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

設問一

趣旨

表現の技法について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

オ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。 《表現の技法》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
3	—	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「比喩」、「たとえ」のように解答しているもの。 * 「比喩」、「ひ喩」、「比喩法」、「直喩」などと解答しているものも正答とする。 ② 「陽炎みたいに揺らめきながら」と同じ表現の技法が用いられているものとして3を選んでいる。		
	1	条件①、②を満たして解答しているもの	53.2	◎
	2	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	1.1	
	3	条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	36.9	
	99	上記以外の解答	8.2	
	0	無解答	0.6	

2. 分析結果と課題

○ 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ (表現の技法) 擬人法、3
- ・ (表現の技法) 体言止め、3
- ・ (表現の技法) 倒置、3

このように解答した生徒は、比喩、倒置、体言止めなどの表現の技法の意味や用法を適切に理解することができていない。「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称が比喩であることを理解できていないものと考えられる。また、直喩や隠喩、擬人法などの比喩の種類を整理して理解することができていないものとも考えられる。

3. 学習指導に当たって

表現の技法を理解し、表現の仕方や効果の違いについて考える

文学的な文章を読む際には、文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えることが大切である。表現の効果については、表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要である。その際、描写の仕方や表現の技法などに着目することが考えられる。

表現の技法については、小学校での学習を踏まえ、「比喩」、「反復」、「倒置」、「体言止め」などの名称で呼ばれている表現の技法をその意味や用法と結び付けて理解し、話や文章の中で使うことが必要である。また、直喩や隠喩、擬人法など、比喩の種類について整理して理解することも大切である。

例えば、表現の技法が用いられている文を、表現の技法を使わない文に書き換え、両者を比較することを通して、表現の技法の効果を確認する学習活動などが考えられる。また、次に示す【コラム②】のように、話や文章の中で比喩が用いられているところを指摘し、比喩の種類ごとに分類して表現の仕方や効果の違いについて考えることも効果的である。

【コラム②】「C読むこと」の指導における〔知識及び技能〕の位置付けの工夫
～「表現の技法」の知識を使えるものにするために～

- 【コラム①】で示したように、〔知識及び技能〕に示されている事項は、〔思考力、判断力、表現力等〕に示されている事項の指導を通して指導することを基本としています。ただし、必要に応じて、特定の事項を取り上げて指導したり、まとめて単元化したりすることも考えられます。

表現の技法については、小学校での学習を踏まえ、中学校では、それぞれの表現の技法が「比喩」や「反復」などの名称で呼ばれていることと結び付けて、その意味や用法とともに理解し、話や文章の中で使うことが求められています。留意したいのが、表現の技法の名称と用法の暗記にとどまらず、その表現の技法がどのような特徴をもつのかを理解することで、表現の技法についての知識を使えるものにするということです。

例えば、次のような比喩の種類について整理する学習活動を、文学的な文章を読む学習の学習過程に位置付けたり、読み終えた文章を用いて取り上げて指導したりすることが考えられます。



教師

比喩表現には「直喩」、「隠喩」、「擬人法」などの種類がありましたね。「少年の日の思い出」から比喩表現を取り出して、分類してみましょう。それぞれ、表現の仕方にどのような特徴がありますか。

〔板書例〕

<p>◎ 迷</p> <p>□ 擬人法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たちまち外の景色は 闇に沈んでしまい ・ 四つの大きな不思議な斑点が 僕を見つめた。 	<p>□ 隠喩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とび色のピロードの羽 	<p>□ 直喩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おさぼるような ・ 焼きつくような昼下がり ・ まるで宝を探す人のように ・ まるで世界のおきてを 代表でもするかのよう 	<p>◎ 比喩表現を分類して 特徴を確かめよう</p>
---	--	---	---------------------------------



ここでの直喩には「ような」という助動詞が使われていますが、短歌などで「ごとし」という表現もありましたね。「とび色のピロードの羽」にはそれがないので、印象が強まる感じがします。

擬人法は、人ではないものを人に見立てて表現する比喩ですよ。 「たちまち外の景色は闇に沈んでしまい」は、「景色」を人に見立てているわけではないので、擬人法ではないと思います。



比喩の種類ごとの特徴を捉えるには、上記の〔板書例〕のように、取り上げた表現を比較できるようにすることが効果的です。その上で、迷ったものなどを意図的に取り上げて検討する場を設定するなど、その技法の特徴と具体的な表現とを結び付けて確認することが理解を深めることにつながります。

設問二

趣旨

事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
《語彙》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
3	二	1	1と解答しているもの	84.3	◎
		2	2と解答しているもの	6.5	
		3	3と解答しているもの	4.0	
		4	4と解答しているもの	4.8	
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	0.3	

2. 分析結果と課題

- 解答類型2～4の反応率の合計は15.3%である。このように解答した生徒は、「途方に暮れた」という言葉を一つの慣用句として理解し、文脈に沿って意味を捉えることに課題がある。解答類型2、3の生徒は、「途方に暮れる」の意味を理解しておらず、話の内容から推測したものと考えられる。また、解答類型4の生徒は、「途方に暮れる」の一部である「暮れる」から、意味を誤って捉えたものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

文脈における語句の意味を理解しながら文学的な文章を読む

文学的な文章を読み、豊かに感じたり想像したりする力を養うためには、まず、言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、内容を解釈することが必要である。その際、文章の中で使われている語句に関心を持ち、語句の意味や使い方に対する認識を深めることができるように指導することが大切である。

例えば、文学的な文章を読んで新しく出合った言葉を取り上げ、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えたり、別の表現に言い換えたりするなどの学習活動が考えられる。その際、語句の意味について調べたことを記録したり、その語句を使った短文を作ったりすることなどを通して、話や文章の中で使うことができるように指導することも効果的である。

設問三

趣旨

場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。
《構造と内容の把握》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型		反応率 (%)	正答	
③	三	1	A→B→Cと解答しているもの	0.7	
		2	A→C→Bと解答しているもの	2.0	
		3	B→A→Cと解答しているもの	10.1	
		4	B→C→Aと解答しているもの	62.4	◎
		5	C→A→Bと解答しているもの	3.4	
		6	C→B→Aと解答しているもの	20.0	
		99	上記以外の解答	0.2	
		0	無解答	1.0	

2. 分析結果と課題

○ 解答類型1～3、5、6の反応率の合計は36.2%である。このように解答した生徒は、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることに課題がある。

解答類型6の生徒は、Aが作品の終盤の「おれ」の行動であることを捉えることはできているが、息子の遊ぶ様子を見ている場面での「おれ」の心情の変化を捉えることができていないものと考えられる。B、Cは、いずれも息子の遊ぶ様子を見ている「おれ」の心情であるが、本文の61行目にある「水辺での遊びを満喫しているらしい息子を頼もしく思う気持ちも芽生えていた」という表現に着目して心情を捉えることができていないものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

文章の展開に注意しながら、叙述に即して文章の内容を把握する

文学的な文章を読む際には、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めることが大切である。その際、第1学年〔知識及び技能〕の(1)「ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。」との関連を図り、細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えていくことが有効である。

例えば、心情を表す言葉を取り上げてその変化をたどったり、叙述の細かな違いに注意して読み、それぞれの叙述が表している心情の違いを考えたりする学習活動が考えられる。

設問四

趣旨

場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。 《精査・解釈》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
③	四 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかを適切に書いている。 ② ①について、話の展開を取り上げて書いている。		
	(正答例) ・ 公園の噴水の広場で海にいるかのように遊ぶ「息子」と同じように、子供の頃の自分も想像力を働かせ、公園の水辺に海を見いだしていたこと。 ・ 息子は公園にある噴水の広場の水辺に自分なりの景色を見いだしているようだったが、子供の頃の自分も公園の水辺に海を見いだしていた。 ・ 「おれ」が幼い頃に遊んでいたと思っていた海は、実は公園の水辺だったことを「なるほど」と思った。 ・ 公園の水辺に海を見いだすことができるような子供の想像力の豊かさ。		
	1 条件①、②を満たして解答しているもの	74.2	◎
	2 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	6.8	
	3 条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	2.8	
	99 上記以外の解答	3.2	
0 無解答	13.0		

2. 分析結果と課題

○ 解答類型2について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 子供の想像力がすごいということ。
- ・ 水辺に海を見出していたこと。
- ・ 水辺に海を見出していたのは、どうやら息子だけではなかったらしいこと。

このように解答した生徒は、「おれ」が何を「なるほど」と思ったのかを適切に書くことはできているが、話の展開を取り上げて書くことができていない。

- 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 海というのはずいぶん縁の遠い存在だったと感じて、小さかった頃のことを思い出したこと。

このように解答した生徒は、話の展開を取り上げて「おれ」の心情を書くことはできているが、「おれ」が何を「なるほど」と思ったのかを書くことができていない。

3. 学習指導に当たって

話の展開を捉えて内容を解釈し、作品を読み味わう

文学的な文章を読み味わう際には、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、話の展開を捉えて、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うことが大切である。その際、作品の特性に応じて、第1学年〔知識及び技能〕の(1)「オ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。」や、第2学年〔知識及び技能〕の(2)「イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。」などとの関連を図ることが有効である。

例えば、物語の結末などについて、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりして解釈し、それぞれの考えを伝え合う学習活動が考えられる。その際、どの描写と描写とを結び付けて考えるかによって解釈も多様になるであろうことを踏まえ、自分の解釈の根拠を考えたり、他の読み手の解釈と比較したりすることが、文章を深く理解したり作品がもつ魅力に迫ったりすることにつながる。具体的な授業のアイデアの一例を次に示す。

授業アイデア例 話の展開を捉えて内容を解釈し、作品を読み味わう

【課題の見られた問題と学習指導要領における内容】

設問三 正答率 62.4%

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 C

イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。

設問四 正答率 74.2%

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 C

ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。

教材

- 堀本裕樹・田丸雅智『俳句でつくる小説工房』（令和4年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語³）
- 教科書や学校図書館にある書籍に掲載されている文学的な文章など

学習の流れ

第1時

① 学習の見通しをもつ。



教師

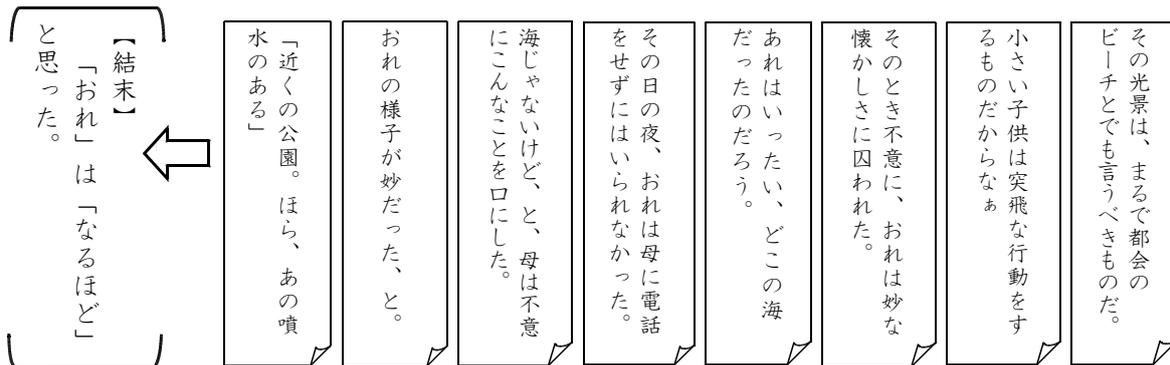
小説を読み味わうためには、話の内容や展開を正しく捉えることが大切です。場面や描写を相互に結び付けて、結末での登場人物の心情を解釈する学習をします。展開を整理しながら「都会のビーチ」を読んでみましょう。

② 各自で「都会のビーチ」を読み、「結末」に至るまでの話の展開の中で重要だと考える場面や描写を付箋に書き写す。

※ ②～⑤について、ICT 機器のホワイトボード機能を活用して学習することも考えられる。

③ グループで、②で書いた付箋を時系列になるように整理し、分かったことや気になったことについて交流する。

〔グループで整理した付箋の例〕



〔生徒の発言の例〕

「おれ」のある一日のことが描かれている話だと分かりました。大きく分けると、息子を連れて行った公園での場面と、夜になって「母」に電話した場面が描かれています。



「おれ」は、途中で「あれはいい、どこの海だったのだろう。」という疑問をもっていますね。なぜ、急に疑問をもったのか、気になります。

第2時



「結末」に至るまでの話の展開をグループごとにまとめて発表します。話の展開を説明するために、特に必要であると思われる描写を選び、選んだ描写と描写とのつながりについて説明できるように準備しましょう。

- ④ ③で整理した付箋の中から、「結末」に至るまでの話の展開を説明する上で必要な場面や描写を選ぶ。

〔生徒の発言の例〕



「結末」を確認しておきましょう。最後の一文は「水辺に海を見出していたのはどうやら息子だけではなかったらしい。」ですが、「息子だけではなく、おれもだった。」ということですよ。

それなら、「息子」の行動についての描写と、「おれ」の記憶についての描写が必要になりますね。

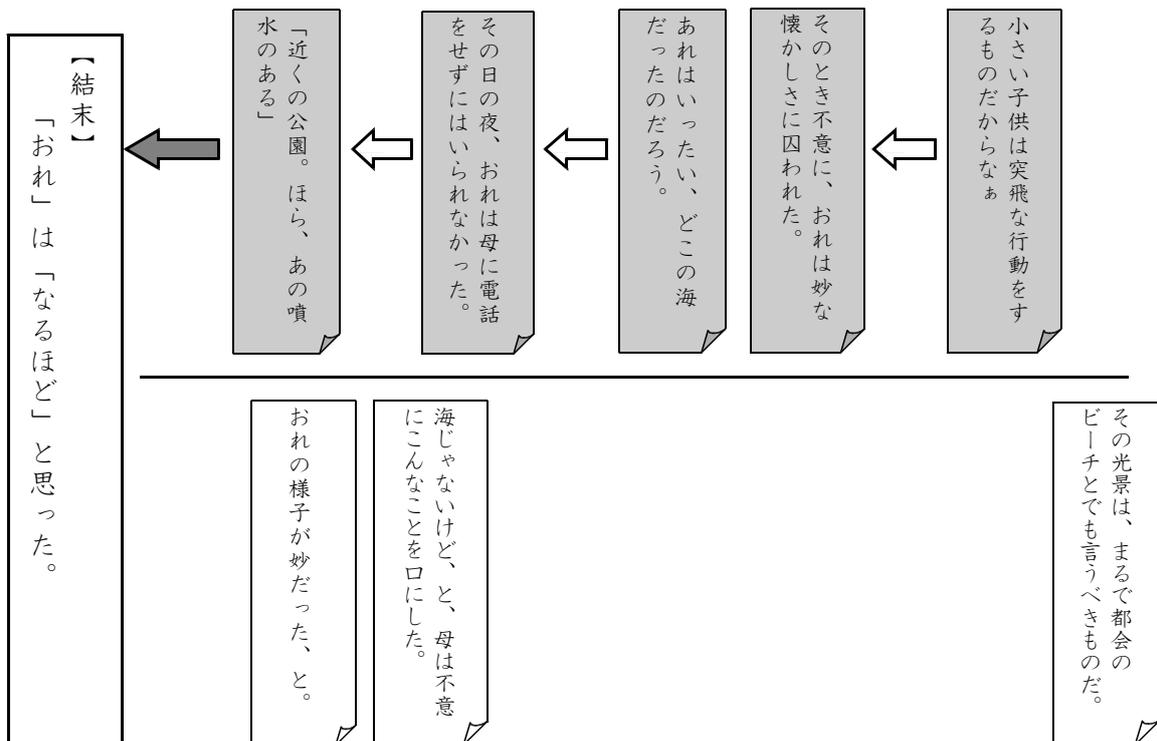


それが分かったのは、「母」との電話でのやりとりがあったからなので、電話の場面も必要です。「おれ」が「母」に電話をしなかったら、この結末にはならなかったと思います。

「おれ」と同じタイミングで読者も「なるほど」と思えることが、この話の面白さだと思います。描写と描写とのつながりに気を付けて、話の展開を丁寧に見ていくと、結末がどういうことなのか、だんだん分かってきますね。

- ⑤ グループごとに、④で話し合った結果を基に、「結末」に至る展開について説明できるように、付箋を使って整理する。

〔グループでまとめた付箋の例〕



ポイント

③の活動を行ってから④、⑤の活動を行うことが、話の展開を捉えた上で、根拠を明確にしながらか解することにつながる。

⑥ グループごとに、「都会のビーチ」の「結末」を話の展開を取り上げて説明する。



「おれ」は公園の水辺で突飛な行動をする息子を見て、妙な懐かしさに囚われます。幼い頃に行った海での記憶を思い出し、「あれはいったいどこの海だったのだろう」という疑問が生まれ、「母」に電話で確かめようとします。「母」との電話のやりとりから、自分が海だと思っていたのは、時々行っていた、噴水のある近くの公園での出来事だったということが分かりました。
つまり、「水辺に海を見出していた」のは「息子」だけではなく「おれ」もだったということが分かり、それが「なるほど」という「結末」につながっていると考えました。

⑦ 他のグループの発表も踏まえて、「おれ」が何を「なるほど」と思ったのかを各自でノートにまとめる。

【生徒がまとめたノートの例①】

「おれ」が「なるほど」と思ったのは、自分自身の幼いときの様子を母に聞いたときに、自分の息子がしていた「突飛な行動」の意味が分かったからだと思った。誰もが幼いときには想像力を働かせて遊んでいることに気付き、「なるほど」と思ったのだろう。

【生徒がまとめたノートの例②】

「おれ」は母親とのやりとりを通して、幼い頃の自分も我が子も、ただの公園の水辺に海を見出していたことに驚き、「なるほど」と思ったのではないだろうか。噴水のある公園を、「まるで都会のビーチ」と例えていたり、「都会のビーチ」という題名を付けたりしているのも、「なるほど」になげようとしたのではないか。

【他学年で活用する際のポイント】

教科書や学校図書館にある書籍などに掲載されている文学的な文章からふさわしいものを教材として取り上げ、以下のように指導することが考えられる。

- 第2学年で、「C読むこと」の(1)イの指導事項について指導する場合には、②～④で、登場人物の言動に注意して読み、それらが話の展開などにどのように関わっているかを考える場面を設定することなどが考えられる。
- 第3学年で、「C読むこと」の(1)イの指導事項について指導する場合には、④で、登場人物の行動の意味を考えたり、⑦で登場人物と自分との考え方の違いを確認する場面を設定したりするなど、文章を対象化して、吟味したり検討したりしながら読むように指導することが考えられる。

※出典等

堀本裕樹・田丸雅智『俳句でつくる小説工房』(2017年10月 双葉社)による。

国語 4 書写

4 竹内さんは、行書で「夢と希望」という文字を書いています。次の「最初に書いた文字」、「友達や先生からの助言」、「書き直した文字」を読んで、あとの問いに答えなさい。

【最初に書いた文字】



【友達や先生からの助言】

行書の点画の書き方に気を付けて書いてみましたが、どうでしょうか。



竹内さん

全体的に行書の特徴を踏まえて書くことができていると思います。ただ、漢字のバランスが悪いような気がします。先生、どうでしょうか。



青山さん

漢字については青山さんの言うとおりですが、ひらがなの「と」についても課題がありそうですね。



先生

【書き直した文字】



一 【最初に書いた文字】について、青山さんは「行書の特徴を踏まえて書くことができている」と述べていますが、その具体的な内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 ①の部分、筆順の変化に気を付けて書くことができている。
- 2 ②の部分は、楷書と同様に点画を直線的に書くことができている。
- 3 ③の部分は、点画を省略して書くことができている。
- 4 ④の部分は、点画を連続して書くことができている。

二 【最初に書いた文字】について、青山さんは「漢字のバランスが悪い」と述べていますが、その具体的な内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 画数の多い「夢」が他の文字より小さい。
- 2 画数の少ない「希」が他の文字より大きい。
- 3 「望」について部首と他の部分とが離れすぎている。
- 4 「希」と「望」について行の中心がずれている。

三 【書き直した文字】の「と」の書き方について説明したのとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 全ての線が直線的になるように意識した書き方。
- 2 線が連続するように意識した書き方。
- 3 漢字より大きくなるように意識した書き方。
- 4 筆圧が一定になるように意識した書き方。

出題の趣旨

- ・ 行書の特徴を理解すること
- ・ 漢字の行書の読みやすい書き方について理解すること
- ・ 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解すること

〔知識及び技能〕の「(3)我が国の言語文化に関する事項」の「書写」について、中学校では、文字を正確に読みやすく書くことができるという、文字の伝達性を重視した指導が求められる。文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、小学校と同様に、書写の学習で身に付けた資質・能力を、各教科等の学習や生活の様々な場面で積極的に生かす態度を育成する必要がある。また、毛筆を使用する書写の指導は、硬筆による書写の能力の基礎を養うことをねらいとしている。そのため、各学年に示されている書写の授業時数に応じて、毛筆を使用する書写の指導と硬筆を使用する書写の指導との割合を各学校と生徒の実態に即して、適切に設定することが求められる。書写の指導を取り上げて計画する場合には、〔知識及び技能〕や〔思考力、判断力、表現力等〕の指導と関連させた指導計画になるように配慮することが重要である。その際、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業を構想することも大切である。

本問では、行書で書いた文字について、よい点や改善点を話し合い、友達や先生からの助言を生かして修正する場面を設定した。行書の特徴を踏まえた書き方や、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方などについて考えることを求めている。

設問一

趣旨

行書の特徴を理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関する事項

エ(イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

《書写》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
4	1	1と解答しているもの	◎
	2	2と解答しているもの	
	3	3と解答しているもの	
	4	4と解答しているもの	
	99	上記以外の解答	
	0	無解答	
		39.5	
		9.0	
		43.5	
		7.1	
		0.0	
		0.9	

2. 分析結果と課題

- 解答類型2～4の反応率の合計は、59.6%である。このように解答した生徒は、漢字の行書の基本的な書き方についての理解に課題がある。

解答類型2の生徒は、行書と楷書の違いについて理解できていないものと考えられる。解答類型3、4の生徒については、行書における「省略」、「連続」が理解できていないものと考えられる。また、解答類型2～4の生徒は、「点画」の意味が理解できていないものとも考えられる。

3. 学習指導に当たって

楷書の学習を踏まえ、行書の特徴を理解して書く

直線的な点画で構成されている漢字を行書で書く際には、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴を理解して書く必要がある。その際、楷書で書いた漢字と比較するなど、これまで学習してきたことを踏まえて指導することが大切である。また、筆脈を意識した点画のつながりなどを身に付けさせるために、毛筆の活用に配慮する必要がある。

例えば、同じ文字を楷書で書いたものと行書で書いたものとを比較したり、点画の連続や点画の省略、筆順の変化などの行書の特徴が、実際に行書で書いた文字のどの部分に表れているのかを確かめたりする学習活動が考えられる。具体的な授業のアイディアの一例を次に示す。

授業アイデア例 楷書の学習を踏まえ、行書の特徴を理解して書く

【課題の見られた問題と学習指導要領における内容】

設問一 正答率 39.5%

〔第1学年〕知識及び技能 (3)

エ(イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

学習の流れ

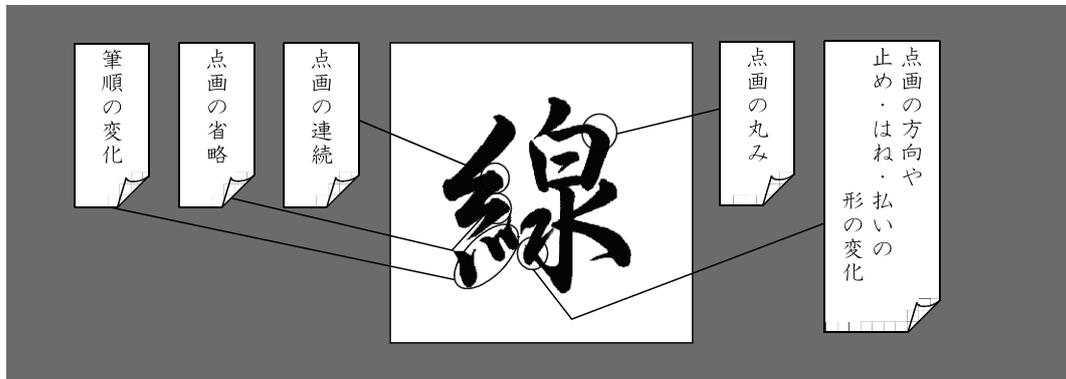


教師

これまで学習してきた行書の特徴を踏まえ、書いた作品のよい点や改善点について話し合います。まずは、「線」という字を例にして、行書の特徴を確認してみましょう。

※ 例に示す字については、教師がその場で書いてもよい。

【板書例】



ポイント

それぞれが書いた作品のよい点や改善点について、行書の特徴を表す言葉を使って交流しましょう。



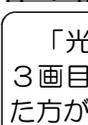
〔Aさんが書いた文字の例〕



〔Aさんが書いた文字について交流する場面の例〕



「日」の字からやわらかい印象を受けるのは、折れの部分に丸みがあるからですね。



「光」が楷書のような書き方になっていますね。2・3画目の点は、筆脈に気を付けて、連続するように書いた方がよいと思います。



筆脈の視点で考えると、「光」の左払いは、方向が変化すると思います。次の画へ向かうことを意識して書いてみてはどうでしょうか。

分かりました。皆さんからの助言を生かして、もう一度書いてみます。



Aさん



よい点や改善点が具体的に指摘できましたね。これまで学習してきた行書の特徴に着目しているからですね。

〔単元の振り返りの場面の例〕



今回の学習で、自分が、行書の特徴のどのような点を特に意識して書いたのか、振り返ってみましょう。そして、行書の特徴を生かして書けるようになった漢字を硬筆で書きましょう。

〔生徒が書いた振り返りシートの例①〕

漢字の行書	振り返り
	<p>省略を意識して書くことで、行書が楷書よりも速く書けることを実感しました。ただ、人に読んでもらう字を書くときには、読みやすく書くことも意識したいと思います。「初」がうまく書けるようになったので、年賀状で書いてみたいと思います。</p>

〔生徒が書いた振り返りシートの例②〕

漢字の行書	振り返り
	<p>今回の学習では、点画の連続や方向の変化を意識して書きました。筆脈に気を付けることが、行書で書くときには大事だと思いました。自分の名前も、行書で書けるように練習してみます。</p>

※ 学習の振り返りは、単元の終末だけでなく、必要に応じて単元の途中で行うことも考えられる。また、学習内容に応じて、以下のような振り返りの観点も考えられる。

振り返りの観点の例

- 前時までに学習したことで、本時の学習に生かしたことは何か。
- 本時（や本単元）で工夫しようとしたが、十分ではなかったことは何か。
- 本時（や本単元）で感じた行書のよさは何か。
- 今後、どのような場面で行書を使いたい。
- 行書の特徴を踏まえて身近な文字を振り返ったときに、どのようなものが行書で書かれているか。

【他学年で活用する際のポイント】

- 第2学年で、「(3)我が国の言語文化に関する事項」のウ(ア)の指導事項について指導する場合には、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して書くことができるように、本アイデア例の【板書例】などを活用するとともに、小学校から学習してきた漢字の楷書とそれに調和した仮名の書き方を踏まえて指導することが考えられる。
- 第3学年で、「(3)我が国の言語文化に関する事項」のエ(ア)の指導事項について指導する場合には、文字の伝達性や表現性などを考えながら目的や必要に応じて書くことができるように、振り返りシートの生徒の記述などを踏まえて授業を構想することが考えられる。また、授業を構想するに当たって、生徒の実態を把握するために「振り返りの観点の例」を活用することも考えられる。

設問二

趣旨

漢字の行書の読みやすい書き方について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関する事項

ウ(ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

《書写》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
④	二	1	1と解答しているもの	2.3	
		2	2と解答しているもの	2.3	
		3	3と解答しているもの	4.2	
		4	4と解答しているもの	90.2	◎
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	1.0	

2. 分析結果と課題

○ 解答類型1～3の反応率の合計は8.8%である。このように解答した生徒は、「漢字のバランス」について「行の中心」に注目して捉えることに課題がある。

3. 学習指導に当たって

字形を整え、文字の大きさ、配列などに注意して書く

行書の文字に書き慣れ、各教科等の学習や生活の中で読みやすく速く書くためには、漢字の行書の基礎的な書き方を理解し、読み手への伝達を意識して書く必要がある。その際、これまでの書写の学習で身に付けた知識や技能を生かし、字形や文字の大きさ、配列などに配慮して書くように指導することが大切である。

例えば、行書で身近な文字や文章などを書く学習の中で、どこをどのようにすると読みやすくなるのか、修正のための具体的な方法を助言し合ったり、助言を基に実際に修正したりする学習活動などが考えられる。

設問三

趣旨

漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関する事項

ウ(ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

《書写》

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
4	三	1	1と解答しているもの	5.5	◎
		2	2と解答しているもの	81.3	
		3	3と解答しているもの	4.5	
		4	4と解答しているもの	7.5	
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	1.1	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1、3、4の反応率の合計は17.5%である。このように解答した生徒は、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方の理解に課題がある。【書き直した文字】の「と」が、「線が連続するように意識した書き方」になっていることを理解できていないものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

筆脈を意識して、漢字の行書と仮名を調和させて書く

漢字の行書とそれに調和した仮名を書くためには、筆脈を意識して、行書の特徴に調和する仮名の書き方を理解して書くことが大切である。その際、楷書に調和する平仮名の書き方を踏まえ、一層筆脈を意識して書くよう指導することが重要であり、行書特有の筆脈の連続や運筆のリズムを理解できるように、毛筆を活用することが有効である。

例えば、これまで学習してきた楷書と仮名の調和した書き方を確認し、行書で書く場合はどのようにすればよいのかを考えるなどの学習活動が考えられる。その際、第1学年で楷書で書いた語句を行書で書いてみるなどして、楷書、行書を問わず漢字と仮名を調和させて書くために共通して配慮すべきことと、それぞれの書体に応じた配慮すべきことを具体的に理解できるように指導することが効果的である。

